

(別紙様式3)

令和2年3月16日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 愛知県名古屋市中区栄 1-14-32
管理機関名 学校法人名古屋石田学園
代表者名 石田 正城

令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

平成31年4月1日（契約締結日）～令和2年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 星城高等学校
学校長名 四方 元
類型 グローカル型

3 研究開発名

『外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト』
～新たなコミュニティーを協創できるスーパーグローバル・リーダーの育成～

4 研究開発概要

人と人との繋がりが希薄になりつつある地域社会において、さまざまな立場の市民の繋がりが活性化する新しいプロジェクトを共生・協働という観点から協創することができる地域リーダーの育成を研究開発の目的とする。本校が立地する愛知県豊明市では、とりわけ外国人市民と高齢市民の増加が顕著であり、それらへの対応が地域全体の大きな課題となっている。そのような現状を踏まえて、今回の研究開発では「外国人市民との多文化共生を推進する地域活動」と「高齢市民との安心・安全な健康生活づくりを協働する地域活動」に取り組む。この活動を通して外国人市民と高齢市民がより輝く、新たなコミュニティーの形成を目指す。この活動の名称は、スーパーグローバル・リーダー(Super Glocal Leader)育成活動とし、その略称として「SGL」と表記する。また、地域協働コンソーシアム全体で共有するSGL活動のスローガンとして、『Rainbow Bridge

Project! - Think Globally, Act Locally - 』を掲げる。市民全体が輝く新たなコミュニティを協創できるグローバル・リーダーの育成のために、課題探究のテーマとして「外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋づくり」を設定し、「多文化共生」・「健康福祉」・「コミュニケーション力」の3つの探究的学習アプローチで構成する教育課程を研究開発する。

5 教育課程の特例の活用の有無

- ア. 特進コースについて、生徒の入学前に告知していない土曜日の学習活動を入学後に教育課程に組み込むという学則変更を行うため、土曜日に実施する総合的な探究の時間の履修認定は、進級及び卒業に必要な必履修単位から除外することができるという措置を本年度入学生の1年次履修に限り適用する。(2年次・3年次はこの特例は適用しない。)
- イ. 特進コースについて、本事業の採択前に確定していた総合的な探究の時間(1単位)があり、本事業に係る総合的な探究の時間(2単位)と合わせて、1年次は3単位の総合的な探究の時間を設定する。そのため、従来の総合的な探究の時間1単位分と分けて、グローバル型地域協働推進校としての総合的な探究の時間「地域協創学Ⅰ」の2単位分を別記する。

6 管理機関の取組・支援実績

(1) コンソーシアムについて

① コンソーシアムの構成団体

[多文化共生コンソーシアム]

機関名	機関の代表者名
豊明市役所	市長 小浮正典
豊明市役所(市内小中学校を含む)	教育長 伏屋一幸
豊明市国際交流協会	会長 石田英城
星城大学経営学部	学長 赤岡 功
株式会社 ARMS	代表取締役会長 濱島正好
県立豊明高等学校	校長 鈴木正博
NPO 法人プラス・エデュケート	理事長 森 顕子

[健康福祉コンソーシアム]

機関名	機関の代表者名
豊明市役所	市長 小浮正典
豊明市役所(市内小中学校を含む)	教育長 伏屋一幸
豊明市社会福祉協議会	会長 加藤 誠
星城大学リハビリテーション学部	学長 赤岡 功
株式会社スギ薬局	代表取締役社長 杉浦克典
県立豊明高等学校	校長 鈴木正博

② 活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
平成31年4月20日	コンソーシアムを組織
令和元年5月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回コンソーシアム会議開催 ・コンソーシアムを構成する関係機関の代表者に本事

	業の趣旨やコンセプトを説明 ・生徒取組状況の説明と地域協働活動の協力要請
令和元年 7 月	・(株) スギ薬局と高齢市民との大金星健康体操プログラムを開発
令和元年 8 月	・(株) ARMS とベトナム人労働研修生徒の昼食交流プログラムを開発
令和元年 9 月	・国際交流協会と子ども日本語教室学習支援プログラムを開発
令和元年 10 月 19 日	・花溢れる街づくりプロジェクトを開発・実施し、開始式ではコンソーシアム関係団体の各代表者が出席 ・外国人市民・高齢市民と共に花溢れる街づくりプロジェクトで花植え活動に参加
令和元年 11 月 1 日	・第 2 回コンソーシアム会議開催 ・各種地域協働活動の実践報告 ・花溢れる街づくりプロジェクトの実践報告 ・全国高校生フォーラム、マレーシア海外研修、探究甲子園、生徒成果発表会など今後の取組予定を報告 ・第 3 回コンソーシアム会議の実施予告

(2) カリキュラム開発等専門家又は海外交流アドバイザーについて

①指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

【海外交流アドバイザー】

名古屋大学大学院国際開発研究科特任助教 古藪真紀子氏

非常勤講師として月 3~4 回程度勤務 *地域協働学習支援員としての勤務も兼ねる

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
平成 31 年 4 月 20 日	・SGL 活動開講式に豊明市長と共に出席 ・令和元年度事業における海外研修計画について協議
令和元年 5 月 17, 18 日	・令和元年度海外研修実施国について協議
令和元年 5 月 21 日	・第 2 回コンソーシアム会議出席
令和元年 6 月 14, 15 日	・令和元年度海外研修実施国及び実施日程、研修内容について協議
令和元年 7 月 18, 19 日	・令和元年度海外研修実施国をマレーシア・シンガポールに、実施日程は 12 月 15~21 日の 7 日間に決定
令和元年 9 月 20, 21 日	・令和元年度海外研修の研修内容の詳細を協議
令和元年 10 月 12 日	・SGL マレーシア海外研修第 1 回事前研修実施
令和元年 11 月 1 日	・第 2 回コンソーシアム会議出席
令和元年 11 月 2 日	・SGL マレーシア海外研修第 2 回事前研修実施
令和元年 12 月 7 日	・SGL マレーシア海外研修第 3 回事前研修実施
令和元年 12 月 23 日	・SGL マレーシア海外研修事後研修実施

(3) 地域協働学習実施支援員について

①指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

名古屋大学大学院国際開発研究科特任助教 古藪真紀子氏

非常勤講師として月 3~4 回程度勤務*海外交流アドバイザーとしての勤務も兼ねる

②実施日程・実施内容

地域協働学習実施支援員の活動実績について、具体的に記入すること。

日程	内容
平成 31 年 4 月 12 日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度事業における活動計画についての協議 ・豊明市における探究活動の在り方についての協議 ・地域協創学Ⅰの授業内容についての協議
平成 31 年 4 月 19 日 平成 31 年 4 月 20 日	<ul style="list-style-type: none"> ・4月20日地域協創学Ⅰの授業内容についての協議 ・SGL 活動開講式に豊明市長と共に出席 ・地域協創学Ⅰの一部授業を実施
令和元年 5 月 17 日 令和元年 5 月 18 日	<ul style="list-style-type: none"> ・5月18日地域協創学Ⅰの授業内容についての協議 ・地域協創学Ⅰの一部授業を実施
令和元年 5 月 31 日 令和元年 6 月 1 日	<ul style="list-style-type: none"> ・6月1日地域協創学Ⅰの授業内容についての協議 ・地域協創学Ⅰの一部授業を実施
令和元年 6 月 14 日 令和元年 6 月 15 日	<ul style="list-style-type: none"> ・6月15日地域協創学Ⅰの授業内容についての協議 ・地域協創学Ⅰの一部授業を実施
令和元年 7 月 5 日 令和元年 7 月 6 日	<ul style="list-style-type: none"> ・7月6日地域協創学Ⅰの授業内容についての協議 ・地域協創学Ⅰの一部授業を実施
令和元年 7 月 18 日 令和元年 7 月 19 日	<ul style="list-style-type: none"> ・7月19日地域協創学Ⅰの授業内容についての協議 ・地域協創学Ⅰの一部授業を実施
令和元年 9 月 6 日 令和元年 9 月 7 日	<ul style="list-style-type: none"> ・9月7日地域協創学Ⅰの授業内容についての協議 ・地域協創学Ⅰの一部授業を実施
令和元年 9 月 20 日 令和元年 9 月 21 日	<ul style="list-style-type: none"> ・9月21日地域協創学Ⅰの授業内容についての協議 ・地域協創学Ⅰの一部授業を実施
令和元年 10 月 4 日 令和元年 10 月 5 日	<ul style="list-style-type: none"> ・10月5日地域協創学Ⅰの授業内容についての協議 ・地域協創学Ⅰの授業を実施
令和元年 10 月 18 日 令和元年 10 月 19 日	<ul style="list-style-type: none"> ・花溢れる街づくりプロジェクト直前打ち合わせ実施 ・花溢れる街づくりプロジェクト実施
令和元年 11 月 8 日 令和元年 11 月 9 日	<ul style="list-style-type: none"> ・11月9日地域協創学Ⅰの授業内容についての協議 ・地域協創学Ⅰの一部授業を実施
令和元年 11 月 15 日 令和元年 11 月 16 日	<ul style="list-style-type: none"> ・11月16日地域協創学Ⅰの授業内容についての協議 ・地域協創学Ⅰの一部授業を実施
令和元年 12 月 6 日 令和元年 12 月 7 日	<ul style="list-style-type: none"> ・12月7日地域協創学Ⅰの授業内容についての協議 ・地域協創学Ⅰの一部授業を実施
令和 2 年 1 月 6 日	<ul style="list-style-type: none"> ・星城高校の職員会議に出席し、SGL 活動報告に対する講評及び評価を発表

(4) 運営指導委員会について

①運営指導委員会の構成員

氏名	所属・職	備考
渥美榮朗	元愛知県教育長	学識経験者
寺田志郎	元愛知県教育委員会学習教育部長、 元県立高校長会会長	学校教育に専門的知識を有する者
久野弘幸	名古屋大学大学院准教授	教育学研究者
月岡修一	豊明市議、学校評議員	有識者
藤井和久	豊明市役所行政経営部長	関係行政機関の職員

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年6月13日	第1回会合 SGL活動の進捗状況を確認し、今後の活動予定の内容や改善が求められる点について協議し、花溢れる街づくりプロジェクト実施の方針を決定
令和元年11月7日	第2回会合 地域協働活動の進捗状況の報告と花溢れる街づくりプロジェクトの実施報告をし、今後の活動予定の内容や改善が求められる点について協議し、マレーシア海外研修と生徒成果発表会実施の方針を決定

(5) 管理機関における取組について

①管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について

ア. 国費に上乗せした独自の支援や取組の実施

- ・海外交流参加生徒への海外渡航費用補助 ・第2外国語（ベトナム語）講師募集
- ・イングリッシュキャンプ実施に掛かる費用負担

イ. 継続的な取組を行うための教員の人事面における配慮

- ・管轄部署立ち上げと主任、副主任の配置 ・主任、副主任の授業持ち時間の軽減
- ウ. 事業を円滑に進めるため、豊明市長や市幹部職員との打合せの実施
- ・2か月に1回程度、豊明市長及び市幹部職員と本事業についての意見交換会を実施

②事業終了後の自走を見据えた取組について

- ア. 豊明市議会議員団との意見交換会を実施し、本事業での「花溢れる街づくりプロジェクト」の取組と豊明市「花の街とよあけ」での取組との関連性を協議
- イ. 管理機関の名古屋石田学園と本事業を実施する星城高等学校とで中長期的な本事業に関わる予算案について協議

③高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

コンソーシアムを構成する関係団体と本事業での取組に関する協定書の締結を進めている。星城高等学校と各団体との個別の協定書を締結することになり、現在1団体(NPO法人)を除くすべての団体と本事業の取組に関する協定書をそれぞれ締結した。

7 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
「地域協創学Ⅰ」で多文化共生の探究学習	1回	1回	1回					1回				
「地域協創学Ⅰ」で健康福祉の探究学習			1回	2回				1回				
「地域協創学Ⅰ」で花溢れる街づくりプロジェクトの探究学習						2回	1回					

「地域協創学Ⅰ」で新たな地域協働活動提言の探究学習								1回	1回	1回	1回	
豊明市内地域協働活動実践①スギ薬局高齢者大金星健康体操				1回	4回			3回	3回			
豊明市内地域協働活動実践②双峰小学校外国人児童学習支援					2回							
豊明市内地域協働活動実践③防災訓練ボランティア				1回				1回				
豊明市内地域協働活動実践④秋祭りボランティア								1回				
花溢れる街づくりプロジェクト							1回					
豊明市議会議員意見交換会									1回			
マレーシア海外研修									1回			

(2) 実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

地元豊明市で増加する外国人市民と高齢市民がより輝く架け橋づくりを目指し、総合的な探究の時間に「SGL 地域協創学Ⅰ（2単位）」を設定し、研究開発した。多文化共生アプローチでは、グローバルな視点及びSDGsの観点で多文化共生の現状を学び、外国人市民との共生の重要性の理解につなげた。健康福祉アプローチでは、高齢者の健康福祉について地元豊明市の現状を学び、高齢市民との協働の重要性を理解につなげた。次に、外国人市民と高齢市民を支援する地域協働プログラムをコンソーシアム関係機関と開発した。今年度開発したプログラムは、1. 双峰小学校での子ども日本語教室外国人児童学習支援、2. スギ薬局三崎店・沓掛店での大金星健康体操高齢者支援、3. 各地区防災訓練支援、4. 秋祭りイベント支援である。これらは外国人児童や高齢の方々の日常生活の一部に触れながら交流を促進させることで共生・協働の重要性を体現するプログラムとなった。地域協働プログラムでの経験をもとに、「花溢れる街づくりプロジェクト（レインボーブリッジプロジェクト）」を提言し、企画した。市内5カ所の公園などを花植え場所に設定し、該当地区の区長や自治会、敬老会などと花壇の作成場所、方法、花の種類、水やり等の管理方法などを協議した。花植え当日には市内の高齢市民約70名と外国人市民約30名の合計約100名が参加し、外国人市民・高齢市民と共に花溢れる街づくりを推進する新たな地域協働活動の協創となった。最終的に、外国人市民や高齢市民が輝く、又はその両方が輝く新たな地域協働活動を探究し、提言内容を1枚のポスターにまとめる。それをポスターセッション形式で発表し、地域協創学Ⅰでの一連の探究学習のまとめとする。コミュニケーションカアプローチとして、学校設定教科SGL語学のSGL英語Ⅰの開発では、ネイティブ教員によるSpeakingとListeningに重点を置いた1クラス2展開での少人数授業を設定し、生徒の英語力向上につなげた。海外研修の開発については、海外交流アドバイザーの

助言をもとにマレーシア・シンガポールでの7日間の行程で企画した。「多民族に出会い、多言語に触れ、多宗教を感じる多文化共生の学び」をテーマに、「海外における多文化共生の成功例」と「移住日本人会へのインタビューによる高齢市民の幸福感」から学び、豊明市での地域課題解決に還元できることを探究する海外研修となった。

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

ア. 1年次の総合的な探究の時間として「SGL 地域協創学 I（2単位）」を設定した。

イ. 学校設定教科「SGL 語学」を設定し、1年次は学校設定科目「SGL 英語 I（1単位）」を設定した。仰星コースでは計画通り実施し、特進コースではコミュニケーション英語 I（4単位）の内の1単位を「SGL 英語 I」の内容で実施した。

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

今年度は「SGL 地域協創学 I」と「SGL 英語 I」の授業の方向性や内容の詳細を研究開発することに焦点を当てた。来年度は今年度実績をもとに「SGL 地域協創学 I」と SGL 英語 I を含むいくつかの教科・科目の授業内容を関連づけることで、教科横断的な学びの構築を目指して研究開発する。

④類型毎の趣旨に応じた取組について

グローバル型の趣旨に沿って、外国人との共生や高齢化する社会に関するさまざまな課題をグローバルな視点から、そして SDGs の観点で学び、それをもとに豊明市の地域課題である「増加する外国人市民との共生と高齢市民の健康福祉」を探究することで、幅広い視野をもって持続可能な課題解決策の提言につなげた。これは地元地域の課題解決に向けた探究学習が、世界全体が抱える課題の解決につながる可能性があるということを生徒が理解し、国連で採択された17の持続可能な開発目標に対して取り組むことの意義を生徒が感じることで、生徒が主体的に探究的な学びを深めていくことを促進させている。

⑤成果の普及方法・実績について

第1回及び第2回コンソーシアム会議を地元ケーブルテレビ局 CCNet に取材してもらい、ケーブルテレビ番組内でその模様を放映してもらうことで取組内容を広報した。また、地元豊明市の各家庭に配布される生活情報誌「ゆいまる倶楽部」の取材を受け、活動内容を巻頭ページに掲載してもらい地元地域の多くの住民に広報した。

(3) 研究開発の実施体制について

①地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

ア. 教育課程に関わることは、SGL 開発部会で立案・協議し、決定した内容を教育課程検討委員会に諮る。そこで決定した内容を運営指導委員会で承認を得て、最終的に管理機関の理事会にて決済される。

イ. 総合的な探究の時間「地域協創学 I」の授業内容については、SGL 開発部会で立案・協議し、SGL 実行委員会で共有する。SGL 実行委員会は主に本事業の該当クラス担任で構成されるので、探究的な学びを生徒の実情を踏まえて実現するために意見を出し合い、それをもとに SGL 開発部主任と副主任が授業計画及び内容を修正していく。

ウ. SGL 開発部主任と副主任は定期的にコンソーシアム関係団体の代表者と打ち合わせを

実施し、探究的な学びを推進するための企画や活動を協議し、その内容を地域協創学Ⅰの授業計画及び内容に反映させる。

エ. 地域協働学習実施支援員と「地域協創学Ⅰ」の授業計画及び内容について定期的に協議し、「地域協創学Ⅰ」の授業の一部を継続的に担当してもらうことで、探究的な学びをより促進させる。

②学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

ア. SGL 開発部会は校長、副校長、参与、教頭(3人)、SGL 開発部主任、副主任、事務職員で構成され、研究開発の内容や進捗状況を管理職で共有しており、授業の実施や活動への参加について支障が出ないように必要に応じて支援する体制となっている。

イ. SGL 実行委員会は副校長、参与、教頭(1名)、SGL 開発部主任、副主任、該当クラス担任(5名)、英語科教員1名で構成されており、SGL 開発部会で協議した内容や決定した内容を該当クラス担任団と共有することにより、地域との協働による探究的な学びを推進する体制になっている。また、各担任には生徒の実情と照らし合わせて無理のない探究的な学びになるように改善点を出してもらい、必要に応じて SGL 開発部主任と副主任が授業や活動の実施計画を修正する体制になっている。

ウ. SGL 開発部主任と副主任がコンソーシアム関係団体の代表者と計画推進のための協議や地域関係者への活動内容の説明や協力依頼などを行っている。また、海外交流アドバイザー兼地域協働学習実施支援員の古藪真紀子氏と海外研修の実施内容についての検討と地域協創学Ⅰの授業計画や授業内容についての協議や打合せを行うことで、地域との協働による探究的な学びを推進する体制になっている。

③学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

ア. SGL 開発部会を週1回の定例会議とし、研究開発の進捗状況を管理している。前週に実施した SGL 実行委員会の実施報告と海外交流アドバイザー兼地域協働学習実施支援員の古藪真紀子氏と協議した内容の報告、そして前週に実施した地域協働学Ⅰの授業内容について報告をすることで進捗状況を定期的に確認している。その報告内容に応じて改善点を指摘し、改善方法などを協議している。

イ. SGL 実行委員会を週1回の定例会議とし、授業計画や内容の検討をするのと共に、実施した内容についての点検評価を実施している。また、その点検評価のまとめを SGL 開発部会に上申することで、その内容を管理職と共有している。

ウ. ルーブリック評価を用いて生徒に活動状況を自己評価させ、その自己評価のまとめをもとに改善すべき点の協議を SGL 開発部会及び SGL 実行委員会の両方で実施し、その後の授業の計画や内容に反映させることで PDCA サイクルを構築しようとしている。

④カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

第1回、第2回コンソーシアム会議において、本事業での授業内容や活動内容、取組状況を共有し、それぞれについての評価できる点や改善点などの助言をいただいている。

⑤カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の学校内における位置づけについて

グローバルな視点での学びを開発・実践する際の助言者として海外交流アドバイザーを配置することになり、名古屋大学大学院国際開発研究科特任助教の古藪真紀子氏にその役割を依頼した。今年度は週1回程度来校していただき、新たな海外研修の開発に重点を置き

て外国人市民との共生と高齢市民の健康福祉に関する現地フィールドワークの企画開発に関して助言をいただいた。事前研修や事後研修の実施についても支援していただいた。

地域との協働による探究的な学びを総合的な探究の時間でどのように実践するかについての指導や助言をし、またその学びに必要となる関係団体の協力をコーディネートする支援員として地域協働学習実施支援員を配置した。今年度は海外交流アドバイザーとの兼任で古藪真紀子氏にその役割を依頼し、探究学習プログラムの研究開発支援と地域協働プログラムの実践支援をしていただいた。週に1回程度企画会議を開き、総合的な探究の時間の授業内容について協議した。また授業担当者の一人として継続的に探究学習に関わっていただくことで、授業内容の開発と授業実践の両面から研究開発を支援していただいた。

⑥運営指導委員会等、取組に対する指導助言等に関する専門家からの支援について

SGL 開発部会での研究開発の内容や進捗状況、コンソーシアムを構成する機関との協力体制の実情、SGL 実行委員会での実施状況などを踏まえ、それぞれの専門的な立場から改善すべき点についての指導や学びを促進させるための助言をする組織として、運営指導委員会を設置した。学識経験者、学校教育に専門的知識を有する者、教育学研究者、有識者、関係行政機関の職員を含む5名で構成され、各学期に1~2回程度開催した。

8 目標の進捗状況、成果、評価

【目標の進捗状況（目標設定シートに記載した目標の進捗状況から主なものを抜粋）】

- ア. 社会貢献活動やボランティア活動に取り組む生徒の数は参加率 100%を目標にしている。該当コースの在籍生徒 168 名に対して、現状ではスギ薬局での健康体操に 98 名、双峰小学校での子ども日本語教室に 44 名、市内防災訓練に 26 名、24 時間 TV ボランティアに 30 名、豊明市秋祭りボランティアに 20 名の合計 218 名が参加した。延べ数ではあるが参加率 100%を超えている。
- イ. 海外研修参加率は 100%を目標にしている。現状ではアメリカ語学研修に 21 名、マレーシア海外研修に 30 名、オーストラリア語学研修に 15 名の合計 66 名が参加し、1 年次の海外研修参加率は約 40%となった。
- ウ. 探究学習の中で生徒が地域の方々と協創した新たな地域協働活動に参加する外国人市民と高齢市民の人数は 100 人を目標にしている。花溢れる街づくりプロジェクトでは高齢市民約 70 名と外国人市民約 30 名が参加し、目標人数に到達した。

【成果】

- ア. 生徒が参加したすべての地域協働活動について、それぞれの関係者より感謝と喜びの言葉をいただいている。特にスギ薬局での健康体操では参加する多くの高齢市民の方々より高校生と体操ができてうれしいという感想をいただいている。また日本語教室での外国人児童学習支援では、多くの外国人児童の笑顔を目の当たりにすることができ、主催する国際交流協会より毎回多くの高校生に協力してほしいという要請をもらっている。生徒は自分たちの主体的な取組が地元地域に住む外国人市民・高齢市民にとって何らかの役に立っていることを実感している。
- イ. 花溢れる街づくりプロジェクトでは、各地区の多くの高齢市民との交流を深めることができた。また、高齢市民から花壇の作り方や土や肥料の扱い、植える花の種類などの毛知識や経験を高校生が教わる機会にもなった。外国人市民については特にベトナム人コミュニティとの交流を深めた。このプロジェクトを通じて、各地区の区長や

自治会、敬老会などとのつながりができたことで今後の活動内容の発展や新たな活動の協創に向けての基盤となった。

【評価】

学期ごとに人材育成の目標に応じた 4 つの評価項目についてのルーブリック評価を実施し、生徒の自己評価結果を下記の表にまとめた。

1 学期	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
【主体性】 自ら行動する力	話をよく聞きメモをとりながら内容を理解する。	話をもとに、自分の意や考えを文章にする。	自分の意見や考えを自分の言葉で主張する。	相手の意見との関連を踏まえて、もう一度自分の考えをまとめる。
【協働性】 人々と繋がる力	相手の意見や考えを素直に聞こうとする。	相手の意見を受けとめ、内容を理解しようとする。	グループ内で相手の意見を尊重し意見を交わす。	多様な意見をもとに、グループとしての意見や考えをまとめる。
【探究力】 解決策を探る力	指示された課題に対して調べ学習などをする。	調べた内容をもとに自分自身の考えをまとめる。	自分自身で課題を見つけ調べた内容をまとめる。	自ら発見した課題に対する解決策を考えまとめる。
【発信力】 相手に伝える力	課題に対して自分が思ったことや感じたことを相手に伝える。	グループ内で課題に対する自分の考えや意見を伝える。	グループで考えた意見や提案などを代表して全体の場で発表する。	自分の考えや意見、又は質問などを全体の場で発表する。
実人数 164 名 延べ数 656 名	129 名 19.7%	322 名 49.1%	176 名 26.8%	29 名 4.4%

2 学期	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
【主体性】 自ら行動する力	班で計画したことや先生から指示されたことに取り組む。	花壇作成状況を見て、追加で必要な作業を自分たちで行う。	花植えなどの際、地域の方々とは交流しながら活動する。	花植え後も地域の方々とコミュニケーションをとり花壇を管理する。
【協働性】 人々と繋がる力	班員や先生の意見を聞いて、花壇作成の計画をつくる。	花屋や J A の方などに相談しながら花壇をつくり花苗の購入をする。	地域の人々と一緒に花壇をつくり、一緒に花植えをする。	花植え後も地域の方々と何らかの交流がある。
【探究力】 解決策を探る力	予算内でよりよい花壇を作るため、その方法を班で考える。	花壇をつくるための作業工程を考、必要なものを購入して取り組む。	地域の方々に説明やお願いを事前に行い、参加者を募ることができる。	花植え活動が地域課題の解決にどのようなつながるかを考えている。
【発信力】 相手に伝える力	花壇作成の計画について、自分の意見を班員に伝える。	地域の方々にあいさつや花植えの説明などをする。	地域の人々と会話をしながら、花壇作成や花植えをする。	地域の方々とお互いの日常生活について会話をする。
実人数 161 名 延べ数 644 名	60 名 9.3%	169 名 26.2%	354 名 55.0%	61 名 9.5%

3 学期	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
【主体性】 自ら行動する力	班の中で自分の役割を理解し、実行できた。	自分の意見やアイデアを言葉にして班員に伝え、協議することができた。	班の中で自分の役割を理解し、実行できた。	自分の意見やアイデアを言葉にして班員に伝え、協議することができた。
【協働性】 人々と繋がる力	班の中で与えられた自分の役割を実行できた。	他の班員の意見やアイデアに対して、班員全員で協議することができた。	班の中で与えられた自分の役割を実行できた。	他の班員の意見やアイデアに対して、班員全員で協議することができた。
【探究力】 解決策を探る力	高齢者や外国人を対象としたテーマ設定ができた。	提言の根拠となる資料やデータ、グラフを調べることができた。	高齢者や外国人を対象としたテーマ設定ができた。	提言の根拠となる資料やデータ、グラフを調べることができた。

【発信力】 相手に伝える力	原稿を見ながら聴衆に向けて、自分の伝えたいことが発信できた。	原稿を見ずに聴衆に向けて、自分の伝えたいことが発信できた。	原稿を見ながら聴衆に向けて、自分の伝えたいことが発信できた。	原稿を見ずに聴衆に向けて、自分の伝えたいことが発信できた。
実人数 163 名 延べ数 652 名	17 名 2.6%	154 名 23.6%	284 名 43.6%	197 名 30.3%

学期ごとの評価文が活動内容に応じて異なるため単純比較はできないものの、1 学期には Level 2 の自己評価をする生徒が最も多く、全体の約半数を占めていたのに対して、2 学期には半数を超える生徒が Level 3 の自己評価をしている。Level 2 から Level 3 へと生徒が変容した要因として、特に主体性と協調性の 2 つの評価項目について生徒の自己評価が高くなったことがあげられる。これは地域協働活動への参加が生徒の主体的な活動であった証であり、地域の人々をはじめ関係する人々と協働して活動した結果を反映していると思われる。探究力と発信力の 2 つの評価項目については他の 2 つほど自己評価が高くなかったことから、探究力の育成とコミュニケーション力アプローチを充実させることで、地域との協働による探究的な学びをより促進させることになると考えられる。3 学期には 30% を超える生徒がレベル 4 の自己評価をした。Level 3 から Level 4 へと生徒が変容したのは、各探究班での提言の検討やポスターの作成、ポスターセッション形式による発表が生徒の主体的な活動となっており、なおかつ探究的な学びになっていたことがその要因としてあげられる。

<添付資料> 目標設定シート

9 次年度以降の課題及び改善点

課題・改善点は 3 つある。1 つ目は生徒の主体性を尊重した取組にすることである。教員とコンソーシアム関係団体との協議の内容によっては、生徒の主体性を削ぐ結果になりかねないことに留意しなければならない。今年度は担当教員が事前に関係機関との打合せや必要な申請書類の提出を行い、ある意味事前におぜん立てをしてしまった部分が多い。準備されたものに取り組むだけで主体性が出せないところもあったのではないだろうか。体験や経験にとどまってしまう部分を、生徒の主体性を引き出す探究学習プログラムに改善していく必要がある。

2 つ目はグローバルの取組にすることである。グローバルな視点での学びと地域課題解決とのつながりや関連性は必ずしも明確であるとは限らない。まずは SDGs に関する学びを中心に世界に目を向けて、一人の地球人として課題解決に臨む姿勢を身につける必要がある。そのうえで地元豊明市の地域課題の解決について探究することにつなげたい。常にグローバルとローカルのつながりや関連を強く意識しながら探究学習プログラムを研究開発する必要がある。

3 つ目は「グローバルな視点での学び」、「地域課題解決に向けた提言・企画・実践の探究学習プログラム」、「地元地域での地域協働プログラム」のそれぞれが単発で結びつきを感じない学びにならないようにし、有機的な学びにすることが重要となる。また、教科横断的探究学習となるように研究開発を進めることも大事な観点となる。

【担当者】

担当課	星城高等学校	TEL	0562-97-3111 (代)
氏名	水野 謙二	FAX	0562-97-2015
職名	副校長	e-mail	mizuno.kenji@seijoh.jp